



## 「自分の命を自分で助ける(自助)」3.11の学習を通して学ぶ

南海トラフ大地震がいつ起きてもおかしくないと言われています。地震をはじめとする災害による被害を最小化するためには、「自分の身は自分で守る」という意識と行動が必要です。鈴鹿市の公立小中学校では、東日本大震災があった3月11日を「津波防災の日」とし、全ての学校で大地震や津波について学び、各校の状況に合わせた避難訓練を実施しています。本校においても、防災に係る様々な学習を通して、日常における防災意識を高めようと以下の取組を行いました。

### 防災学習①「大地震の揺れを体験して…」起震車体験

3月7日(金)の1限目に、県から防災啓発専門員さんをお呼びし、「起震車(地震体験車)」による地震体験を行いました。大地震の揺れを体験し、その身の守り方を学ぶことで、子どもたちの防災意識を高めるために実施しました。子どもたちには、事前に「防災ノート」や「防災に係る動画」等を通して地震や津波のことを学んでもらいました。でも、実際の地震体験は想像を超えていたようです。

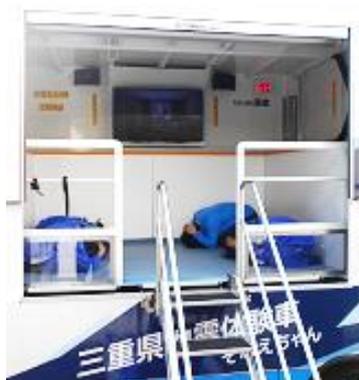
専門員さんからお話と注意点を教えてもらった後、デモンストレーションとして教員が阪神淡路大震災の揺れ方と同じ設定にした震度7を体験しました。私も体験したのですが、揺れが始まった途端、自分の体が一気に浮き上がりました。「校長先生が浮き上がった!」と言っていた子がいました。教えていただいた「ダンゴムシのポーズ」で身を守ろうとしても、そのポーズを保つことができません。正直、とても怖かったです。

子どもたちは、震度6を体験することになりました。1年生は、最初怖がっていました。「先生たちが一緒に乗るよ。近くにいるから。」と声をかけることで、体験できました。そして、2年生、3年生、4年生…と順に体験していきました。体験する前は、ほとんどの子が大丈夫だろうと高をくくっていたのでしょうか。ところが、揺れが始まると、みんなが必死に耐えていました。体験後はどの子も驚きを隠せない様子でした。下級生の体験を見ていた5年生から「南海トラフで想定されている震度7を体験したい。」との声があがりました。専門員さんをお願いをし、5・6年生は震度7を体験しました。予想以上の揺れに、5・6年生も戸惑っているようでした。

体験後の振り返りでは、どの子も自分の防災意識を見つめ直していました。安全対策や備えについてもたくさん考え直していました。起震車体験は、子どもたちの防災意識を高める良いきっかけとなりました。



お話を聞く子どもたち



「ダンゴムシのポーズ」



6年生は専門員さんと意見交流

## 防災学習②「津波防災の日」3・11を知り、真剣に避難訓練！

3月11日(火)に、「津波防災の日」に合わせて大地震に対する避難訓練を行いました。避難訓練に先立って、朝の学習の時間に事前学習を私(校長)が行いました。私事ですが、私は当時「みえ災害ボランティア支援センター(通称:みえボラ)」の派遣チームの一員となり、岩手県山田町で災害支援を行った経験があります。そのチームから学習用にいただいた写真と私自身が見聞きしてきたことを子どもたちに話しました。「庄内の町には津波は来ません。でも、土砂災害はあります。」「休日にもし海のそばにいたら、津波が来るかもしれない。」と語り、釜石の小中学生が普段から真剣に避難訓練をしていたので、この時に津波から逃げ切り助かった「釜石の奇跡」の話をお届けしました。どの学年も私の話を真剣に聞いてくれました。

2限目終了と同時に訓練が始まりました。大地震の放送とともに、机の下にさっと身を隠す子どもたち。雨の日だったので、体育館への避難としましたが、学校中の子どもたちが先生の指示に従い、一言も言葉を発せず、先生の指示に従い静かに素早く避難することができました。いつもでしたら、少しぐらい話をする子がいてもおかしくないのですが、この日は体育館でもとても静かに待っていました。どの子も本当に真剣な顔でした。私は、これまでたくさんの避難訓練を行ってきましたが、これほどしっかりできた訓練はありません。私は、子どもたちに、「(庄内小の)皆さんの避難訓練の態度は、私が出会った子どもたちの中で1番です。」と伝えました。今までにない素晴らしい訓練ができたと感じています。これも、起震車の体験が大きかったのではないかと感じています。

地震の恐ろしさを様々な体験によってしっかりと感じる事ができました。大地震は今この時に起きるかもしれません。万が一の時には、庄内小の子どもたち全員の命を子どもたち自身の自助の力と互いの協力による共助によって、自分たちの命の安全を確保していきます。ご家族でも、防災ノート等を活用して、避難場所等をご相談ください。



※以下は、登下校中の安全確保についての記事です。よろしければ参考にしてください。

### 子どもが登下校中に地震…今なにをしたら？ 2022年6月21日(朝日新聞より抜粋)

もし、登下校中に地震の揺れを感じたら、車が来ていないかなど、前後左右、上下を含め安全確認をして、壁や電信柱など高い建造物の反対側の広い場所へ逃げましょう。揺れを感じた時、本能的に高い壁などに手をつきたくなりますが、入門さんによると、「倒壊のおそれがあるため、絶対に手はつかない」というのが鉄則です。また、学校では、頭を守り、机の下に隠れると教わりますが、これはあくまで学校の中での話。登下校中など屋外にいるときは、安全を確認したら、たとえ車道にはみ出してもいいので、壁などから離れることが大切です。揺れがおさまったら、事前に決めておいた家族の集合場所へ避難しましょう。集合場所決め、親の電話番号もこうした時に備え、普段から子どもと話し合っておくことも大切です。通学路や子どもが日常的によく通る道について、実際に子どもと一緒に歩いて点検しましょう。子どもの背丈を超えるブロック塀や朽ちた樹木など、危険な箇所がある場合は、歩道の反対側を通ったり、急いで通りすぎたりすることを教えます。工事現場なども要注意です。周囲の状況が変化する場合もあり、子どもの成長にあわせて1年に1回程度は点検し直すことが望ましいです。自宅に帰るのか、公園や駐車場など広い場所に逃げるのか、家族との集合場所を優先順位2番目ぐらいまで決めておきましょう。集合場所など災害時に必要な情報はカード型などにして常に持ち歩き、保護者も同じものを用意しておくとう便利。保護者の連絡先(携帯電話番号など)を覚えさせておくとうよいでしょう。